



北太平洋に「プラごみ地帯」



「太平洋ごみベルト」海域で見つかった多数のプラスチックごみ(研究グループ提供)

◎記事から読み取ろう

○「太平洋ごみベルト」をまとめよう。

・どこにあるのですか。

・総量は 1.6×10^6 トン

・個数は 1600 個

・面積は 1.6×10^6 平方キロメートル

これは日本の面積の 1600 倍

・14年前の試算量の 94% (ただし別の方法)

・調査をしたのは、2018年

北太平洋に「プラごみ地帯」

8万トン集積 日本が最多3割



北太平洋の米カリフォルニア州沖からハワイ沖に、海を漂うプラスチックごみが集まる「太平洋ごみベルト」と呼ばれる海域があり、ごみの総重量が約7万9千トンに達するとの推計をオランダなどの研究グループが20日までまとめた。細かく砕かれた微粒子「マイクロプラスチック」を中心に1兆8千億個が漂っていると試算している。生態系への影響が懸念され、削減のための国際的な協力体制の構築が課題となる。

ごみベルトの面積は1600万平方メートルで日本の面積の1600倍超。表示などから製造場所が分かった386個のうち、日本のものが15個(約3%)と最も多かった。海流で運ばれたとみられ、2011年の東日本大震災の津波の影響も考えられる。2番目に多いのは中国の13個だった。今回の重量は、14年に別の手法で試算した量の16倍だった。調査したオランダのオーション・クリーンアップ基金やデンマーク・オーボールボイなどのグループは「プラスチックごみの海洋汚染が進んでいる可能性が高い」と対策強化を訴えた。

マイクロプラスチックは海を漂ううちに壊れてできる直径5ミリの微粒子。魚の体内に入り込むことで生物や生態系へ悪影響を与えると懸念されている。ごみベルトに集まった94%がマイクロプラスチックとみられ、数は14年の試算の約10倍に上った。微粒子による汚染の進行を裏付けたグループは2015〜16年、船を使った採取調査や推計した。

地球上には海流でごみが集まりやすい海域があることが知られている。太平洋ごみベルトもその一つだが、実態はよく分かっていない。

海ごみベルトは、マイクロプラスチックは海を漂ううちに壊れてできる直径5ミリの微粒子。魚の体内に入り込むことで生物や生態系へ悪影響を与えると懸念されている。ごみベルトに集まった94%がマイクロプラスチックとみられ、数は14年の試算の約10倍に上った。微粒子による汚染の進行を裏付けたグループは2015〜16年、船を使った採取調査や推計した。

地球上には海流でごみが集まりやすい海域があることが知られている。太平洋ごみベルトもその一つだが、実態はよく分かっていない。

◎広げよう・深めよう

○「マイクロプラスチック」についてまとめよう。

・どのようにしてできるのですか。

・ごみベルトの 94% を占める。

(佐賀新聞2018. 8.21付) 14年の試算の 94% 倍

・どのような悪影響が懸念されていますか。

◎自分の考えをまとめよう *友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○ プラごみ対策について、意見を書いてみよう。